

令和4年10月2日、障がいのある人ない人、さまざまな国籍の人、地域に住む子どもや大人など多様な人が西橋内中学校の体育館に集い「精神障がい者ソフトバレーボール体験会」が開催されました。この体験会を主催したピアサポートみえの杉田宏さんと細野晶代さん、精神障がい者バレーボールチーム「チューずdayず」監督の海野健さんから、この体験会を開催するに至った経緯や、この体験会に込めた思いを伺いました。

精神障がい者バレーボールチーム監督へのインタビュー

精神障がい者バレーボールに携わるきっかけは？

私は中学生からバレーボールを始めて、高校、専門学校、社会人クラブチームとプレーしてきました。10数年前、知り合いから、あるご夫婦を紹介されました。そのご夫婦は精神障がい者バレーをやっていて、指導ができる人を探していました。私はそれまで精神障がいのある人と関わった経験はありませんでしたが、そのチームは東海大会で勝ち進むために指導者を探しているということで「何か力になれば」と思って引き受けました。



チューずdayず監督
海野健さん

監督になって気付いたことは？

まず感じたことは、「一人一人の個性が強いな」ということでした。集合するときに集まらない人がいたり、練習中に寝転がったりする人もいましたが、「みなさんはどうしたいですか？」と聞くと、「東海大会で優勝したい」と言われたので、それを目標に練習をしました。1年目の大会では緊張して練習でやっていたことを全く出せず、残念ながら1回戦で負けてしまいました。

その夜の反省会では、子どもの頃の話や家族の話、偏見や厳しい見方をされた経験も聞かせてもらいました。そうして「それぞれが色々なことを抱えさせられながら、懸命に生きているんだな」と気付いたんです。何より「バレーをしているときはみんな元気な声を出してプレーして、笑ってられる。この時間を心から楽しんでほしい」と思いました。

それから現在まで私も共に楽しませてもらっています。これまでには、東海大会で優勝したり、愛媛国体へ出場したりもしました。

体験会を通じて感じた思い

ピアサポートみえから体験会について相談があり、この機会を通じてチームのメンバーと関わる人が広がったり、一緒にできる人が増えたり、最近減少しているバレーをする人を増やすことにもつながりたいという思いで関わらせてもらいました。最初は、「あまり関わったことがない人や中学生たちから、チームのメンバーや精神障がいのある人たちはどう見られるだろうか」という不安もありました。

でも、チームのメンバーも他の参加者も本当に楽しそうに活動している姿を見て、そのような思いも消えていきました。

この体験会に集まった人のように、共に楽しむことを通して互いに少しずつ分かり合うことで、よりよい社会をつくっていくことにもつながると感じました。

今回は3月11日に伊賀市青山中学校での体験会を予定していますが、これからもこのような取り組みを続け、さらに広げていけるといいなと考えています。



★取材者の感想★

「ごちゃまぜな空間」とは、さまざまな違いのある人が集い、共に活動することを通してお互いに知り合う場であり、こうした機会が入り口となって、ありのままの自分・ありのままの相手を認め合い、分け隔てられることのない「共に生きる社会」に近づけるのだと感じました。